

## VI 研究開発の評価

### 1. 授業研究

#### (1) 協働して取り組む授業研究

##### 1) 研究授業の位置づけ

研究を行うにあたり、私たちは日々の保育・授業実践をもとにし、その中から実践における研究課題を明らかにすることを通して、研究理論の実践的裏づけを行うと同時に研究理論への実践からの提言を行おうと考えた。そのため、日常の保育・授業を大切にすることはもちろんであるが、幼稚園・小学校・中学校間の課題の共有化および議論の焦点化を図るために、研究授業を実践研究のポイントのひとつと位置づけた。その上で研究授業で明らかになった課題の継続的な研究をその後の授業で続けることと、日常の授業からの提案を研究授業で行い全体での協議の対象とすることをを行った。

研究授業は以下のようにして行った。

- ・研究授業の日時を3校園で調整し、互いに参加しやすいようにした。
- ・授業クラスだけは研究授業のための特設の時間を設け、教員全員が研究授業をに参加することができるようにした。
- ・研究授業についての意見をカードに記入する（KJ法）ことや、授業後の協議会に参加することを通して研究理念や課題の共通理解を図った。
- ・学習指導案、授業の記録（子ども・生徒の様子の文字記録等）、協議会の記録（討議そのままに記録したもの）、研究授業のまとめ（研究授業全体をまとめたもの）をバーチャル職員室に保存し、3校園の教員が必要に応じて見られるようにした。
- ・研究授業のまとめを「授業者自評」「協働について」「適時性・連続性」「他校種から」「その他」「発展課題」の項目で行った。尚、この項目は研究を進める中で定まってきたものである。
- ・上記「発展課題」は授業者自身がその後の学習指導で意識的に取り扱うとともに、以後の研究授業でも可能な限り触れるようにした。
- ・学習指導案については研究を進める中で、協働の姿をより明らかにしていこうという意図で、「共同性」「公共性」「知性と身体性」の項目を立てて述べるようになってきた。

##### 2) 授業を見る視点

授業研究を行うにあたっては、研究理念と実践の一体化が大切である。また、授業を評価してその後の課題を見出すためには授業の実際をどのように見取るかが重要である。子どもや生徒の実際の学習活動を見て、教師がそれをどのように判断するのかによって研究の評価が行われる反面、研究が進むにしたがって、教師の見方が変化してくる面もある。このような点については教師一人ひとりが日々の授業を通して行っているが、それを教師間で討議しより深めていくためにも研究授業は大切な機会となった。また、校種間の連携教育を考えると、幼・小・中学校の教師間の相互理解や、子どもの見方や授業に対する視点の共有も重要となる。授業後の協議会ではその日の授業で見えた子どもの姿をもとに研究課題についての意見、疑問等を出し合い、研究全体の方向性を探るとともに、教師一人ひとりの研究課題をも明確にしてきた。そのためには私たちは常に子どもの姿をどのように見取るかを大切にしようという心がけてきた。

一方、課題を明確にしていくためには何らかのまとめも必要であった。そのために、研究授業後にはそのまとめを行い、課題の継続性を図った。

お茶の水女子大学附属校 学習履歴表

：研究開発

※テーマの下の太字はキーワード

| 年度         | 平成9年度                                       | 平成10年度  | 平成11年度   | 平成12年度                     | 平成13年度   | 平成14年度                    | 平成15年度  | 平成16年度                                      | 平成17年度                |
|------------|---|---|--|----------------------------|--|---------------------------|---|---|-----------------------|
| 中学校        | 小中連携(1)<br>「意味ある学び」を<br>創出する教育課程の<br>開発     | 同左(2)   | 同左(3)合同発表会   | 同左(4)                      |  | 絶対評価導入                    | 2学期制導入  |   | 幼小中連携(1)              |
| 小学校        | 小中連携(1)<br>同上<br>同左(3)<br>思いや考えが表せる         | 同左(2)<br>同左(4)<br>思いや考えを共有で<br>きる<br>スモールスクール | 同左(3)合同発表会<br>同左(5)<br>自分に反映する<br>スモールスクール                             | 同左(4)<br>研究の評価<br>スモールスクール | 幼小連携(1)<br>関わり合って学ぶ力<br>を育成する教育内容・<br>方法の開発                            | 同左(2)<br>接続期、新しい学習<br>分野  | 同左(3)<br>おむすびモデル、参<br>加・協働・創造、基幹<br>となる資質・能力、<br>学びの概要、接続前・<br>中・後期 | ともに学びを創造す<br>る<br>今日的課題                     | 幼小中連携(1)              |
| 幼稚園        | 保育カンファレンス<br>ひとりの保育者の変<br>容・自己理解から自<br>己洞察へ | 保育カンファレンス<br>保育者の連携を手が<br>かりに考える              | 保育カンファレンス<br>個の変容の事例から   | 連携あを軸に保育を<br>考える           | 幼小連携(1)<br>同上  | 同左(2)                     | 同左(3)   | 協働的な学びを育む<br>「感じる・表す・とも<br>に楽しむ」をキーワ<br>ードに | 幼小中連携(1)              |
|            | 小1:ひびく<br>田中(康)、中村、村<br>上、猶原                | 小2<br>阿部、田中、中村                                | 小3<br>阿部、遠藤、田中、<br>長坂  | 小4<br>五十嵐、遠藤、馬場、<br>村上、石井  | 小5<br>五十嵐、岡田、和田、<br>村上、猶原  | 小6<br>五十嵐、岡田、村上、<br>和田、猶原 | 中1<br>渡辺、栗原、松本、<br>木村   | 中2<br>渡辺、栗原、松本、<br>木村                       | 中3<br>渡辺、栗原、松本、<br>木村 |
|            | ことば、数、創活                                    |   | ことば、数、創活   |                            |  |                           |   |   |                       |
| 年長 田中 高橋   | 小1:ならい<br>小林、辰巳、成田                          | 小2<br>小林、辰巳、成田、<br>流田                         | 小3<br>成田、若林、和田、<br>神戸  | 小4<br>遠藤、栗原、若林、<br>阿部、郡司   | 小5<br>郡司、松木、横山、<br>渡辺、上田   | 小6<br>郡司、松木、横山、<br>渡辺、上田  | 中1<br>田口、関根、鈴木、<br>寺本   | 中2<br>田口、関根、鈴木、<br>寺本                       |                       |
|            | ことば、数、創活<br>音楽専科なし<br>上下学年運動会               |   | ことば、数、創活<br>音楽専科なし<br>上下学年運動会<br>富浦宿泊                                  |                            | ことば、数、創活<br>創活:土   |                           |   |   |                       |
| 年中 伊集院 上坂元 | 年長 伊集院 上坂元                                  | 小1:のぞむ<br>新井、岡田、中村                            | 小2<br>新井、岡田、横山、<br>黒部  | 小3<br>新井、佐藤、横山、<br>神戸      | 小4<br>佐藤、田中、成田、<br>新井、金久保  | 小5<br>金久保、成田、長坂、<br>新井、岡田 | 小6<br>岡田、金久保、長坂、<br>成田、猶原   | 中1<br>福田、佐々木(よ)、<br>蘆部、井上                   |                       |
|            | ことば、数、創活                                    |   | ことば、数、創活<br>創活:生き物、地域<br>の店に弟子入り                                       |                            | ことば、数、創活(音)<br>後期は7教科、創活、<br>上下学年運動会リー<br>ダー                           |                           | 創活:川  |   |                       |
| 年小 吉岡 佐藤   | 年中 吉岡 尾形                                    | 年長 吉岡 尾形                                      | 小1:きぼう<br>浅川、田中、長坂、<br>海老原   | 小2<br>浅川、石塚、田中、<br>長坂      | 小3<br>浅川、遠藤、辰巳、<br>神戸  | 小4<br>遠藤、辰巳、田中、<br>村上、神戸  | 小5<br>遠藤、辰巳、冨田、<br>馬場、松木  | 小6<br>遠藤、冨田、辰巳、<br>馬場、松木                    |                       |
|            | ことば、数、創活                                    |   | ことば、数、創活(音)  |                            |  |                           |   |   |                       |
| 年小 田中 高橋   | 年中 上坂元 高橋                                   | 年長 上坂元 高橋                                     | 小1:きずく<br>相原、石井、榎本、<br>松木  | 小2<br>相原、石井、榎本、<br>流田      | 小3<br>浅川、榎本、和田   | 小4<br>浅川、石塚、和田、<br>村上、神戸  | 小5<br>浅川、石塚、和田、<br>村上、神戸  | 小6<br>浅川、石塚、和田、<br>村上、神戸                    |                       |
|            | 保育者の連携を意識化する                                |   | ことば、数、創活(音)  |                            | ことば、さんすう、し<br>ぜん<br>からだ、うた、なか<br>ま                                     |                           |   |   |                       |
|            | 年小 田中 伊集院                                   | 年中 伊集院 佐藤                                     | 年長 伊集院 佐藤  | 小1:いこう<br>阿部、石塚、若林、<br>長坂  | 小2<br>阿部、石塚、若林、<br>流田  | 小3<br>阿部、榎本、郡司            | 小4<br>榎本、栗原、田中、<br>成田、岡田  |   |                       |
|            | グループを取り入れ<br>る<br>異年齢の関わりの方<br>法を取り入れる      |   | ことば、かずとかた<br>ち<br>からだ、なかま<br>2学期からはことば、<br>さんすう、しぜん、<br>からだ、うた、なか<br>ま |                            | ことば、さんすう、<br>しぜん<br>からだ、うた、なか<br>ま                                     |                           |   |   |                       |
|            | 年小 吉岡 清宮                                    | 年中 吉岡 清宮                                      | 年長 吉岡 清宮   | 小1:かなえ<br>相原、佐藤、冨田、<br>猶原  | 小2<br>相原、佐藤、田中、<br>若林  | 小3<br>郡司、佐藤、村上、<br>猶原     |   |   |                       |
|            | 異年齢の交流が盛んになる                                |   | 接続期としてグルー<br>プ活動、当番活動を<br>再検討  |                            | ことば、かずとかた<br>ち<br>からだ、なかま<br>2学期からはことば、<br>さんすう、しぜん、<br>からだ、うた、なか<br>ま |                           |   |   |                       |
|            | 年小 上坂元 高橋                                   | 年中 上坂元 高橋                                     | 年長 上坂元 高橋  | 小1:ひろく<br>新井、横山、渡辺、<br>上田  | 小2<br>小野塚、横山、渡辺  |                           |   |   |                       |
|            | この年から<br>年中児クラス替え                           |   | 年長児担任交代  |                            |  |                           |   |   |                       |
|            | 年小 伊集院 佐藤                                   | 年中 吉岡 佐藤                                      | 年長 吉岡 佐藤   | 小1:のびる<br>阿部、石井、長坂、<br>若林  |  |                           |   |   |                       |
|            | からだ もの こと<br>ば                              |   | ともだち・なかま   |                            | 年長 担任交代  |                           |   |   |                       |
|            | 年小 伊集院 清宮                                   | 年中 伊集院 清宮                                     | 年長 伊集院 高橋  |                            |  |                           |   |   |                       |
|            | からだ もの こと<br>ば                              |   | ともだち・なかま   |                            |  |                           |   |   |                       |
|            | 年小 上坂元 清宮                                   | 年中 佐藤 清宮                                      |  |                            |  |                           |   |   |                       |
|            | からだ もの こと<br>ば                              |   | ともだち・なかま   |                            |  |                           |   |   |                       |
|            |   | 年小 吉岡 村石                                      |  |                            |  |                           |   |   |                       |
|            | からだ もの こと<br>ば                              |   | ともだち・なかま   |                            |  |                           |   |   |                       |

3) 学習の履歴

授業研究において子どもの姿を語るときや研究の評価方法を検討するとき、私たちは、子どもたちがどのような学習経験をしてくれているのかを明らかにしておくことが大切であることに気付いた。

それは一人ひとりの子どもの行動の意味づけの面からも重要であるし、これまでの研究活動が子どもにどのような影響を与えたかを知るための手がかりともなる。そのような必要感から、現在在校・園の子どもたちが幼稚園入園時から現在までの学習履歴を、このような一覧表にまとめた。

(2) 研究授業の実際

1) 実施した研究授業一覧

17年度4月からこれまでの間に実施した研究授業の一覧を下に示す。

<幼稚園>

事例研究（日常保育の実践事例の検討）

研究保育

|         |         |      |                 |
|---------|---------|------|-----------------|
| 6 / 1   | 10 / 12 | 3 歳児 | 砂場の遊具の出し方 くるま遊び |
| 10 / 12 |         | 4 歳児 | まほうのほうき作り       |
| 6 / 29  |         | 5 歳児 | プラネタリウム         |
| 4 / 26  | 6 / 28  | 3 学年 | こいのぼりづくり 水遊び    |

|            |      |           |
|------------|------|-----------|
| 6 / 22(水)  | 5 歳児 | じゃやがいもやさん |
| 10 / 31(月) | 5 歳児 | ファイヤーランド  |

公開保育研究会 5 / 27(金) 12 / 2(金)

<小学校>

| 授 業 I          |     |         |                                      | 授 業 II |       |                                  |
|----------------|-----|---------|--------------------------------------|--------|-------|----------------------------------|
| 4 / 22<br>(金)  | 4 年 | ことば     | 「読むこと」とは『白いぼうし』                      | 6 年    | 生 活 化 | くつ下で校内を歩いてみると                    |
| 5 / 24<br>(火)  | 6 年 | 算 数     | いろいろな立体                              | 1 年    | なかま   | 生きものを見ながらお話しよう                   |
| 6 / 28<br>(火)  | 4 年 | 創 造 活 動 | 紙を知ろう                                | 5 年    | 音 楽   | どんな感じがする？<br>(ミュージックプランによる学習の中で) |
| 9 / 13<br>(火)  | 2 年 | ア ー ト   | 夢の島                                  | 2 年    | からだ   | ともだちとたのしく (水遊び)                  |
| 9 / 27<br>(火)  | 5 年 | 市 民     | 北海道で新しい会社をつくろう                       | 1 年    | ことば   | リズムに合わせてお話づくり                    |
| 10 / 11<br>(火) | 4 年 | 算 数     | 2けたでわるわり算                            | 4 年    | 自 然   | 月の形と動き                           |
| 10 / 18<br>(火) | 5 年 | ことば     | 五行歌                                  | 3 年    | 市 民   | わたしたちのくらしと<br>町の人の仕事             |
| 12 / 8<br>(木)  | 5 年 | からだ     | からだのふれ合いを通して仲間と<br>つながる「エキサイティングボール」 | 1 年    | 音 楽   | からだでたのしむ                         |

<中学校>

|            |       |     |                                  |
|------------|-------|-----|----------------------------------|
| 5 / 19(木)  | 2 年全員 | 保 体 | 体育大会準備 (クラスリレー・いかだ流し)            |
| 6 / 14(火)  | 3 年   | 音 楽 | 音楽プロデュース活動                       |
| 7 / 5(火)   | 1 年   | 美 術 | 「みる・かく」                          |
| 11 / 8(火)  | 3 年   | 理 科 | 星の一日の動き                          |
| 11 / 22(火) | 2 年   | 英 語 | 英語劇「The fore seasons」            |
| 12 / 13(火) | 3 年   | 国 語 | みんなで突破、面接試験 ～戦略的コミュニケーション能力の育成～  |
| 12 / 22(木) | 2 年   | 数 学 | 平行四辺形になるための条件                    |
| 1 / 31(火)  | 2 年   | 社 会 | 「法について考えよう」責任って？                 |
|            | 2 年   | 家 庭 | 「食生活の自立」～ミニマムエッセンシャル卵料理、調理実習を交えて |

## 2) 研究授業の方法

以上述べたように、今年度は研究授業を重視し、各校園内で基本的に全教員が参観できる体制を整え実施してきた。また、校種を超えて研究授業を見合い、互いに各校園の現状を理解することに努めてきた。さらに、授業後の協議会では、進行方法を幼・小・中で共通にし、活発な意見交流を重ねてきた。ここでは、研究授業及びその後の協議会進行における方法を示したい。

### <時程の工夫>

- ・研究授業を午後の最終校時に設定し、当該学級以外は下校。(例外は除く)全教員が授業を参観できるようにした。
- ・授業は、通常授業と同じ時間(小学校40分・中学校45分)で行い、授業後の話し合いは1時間を目安に行った。

### <役割分担の工夫>

#### ○ 指定討論者について

・授業後の話し合いで、活発な意見交流ができるように、積極的に意見を言う役割として、指定討論者を2名決めた。そのうち、1名は司会担当として、円滑な話し合いを進めてきた。指定討論者は、KJ法でまとめられた授業後の感想を基に、話し合う視点を明らかにするよう努めた。また、授業者と提案内容についてディスカッションし、その後、参会者から意見を出してもらおうようにした。その際、他校種からの意見を積極的に引き出し、連携研究としての深まりを意識した。

#### ○ 教員への案内、研究授業の記録

- ・研究授業についての案内は、各校園の研究推進部より、ホームページ、及び、学内メールで行った。
- ・授業中の、写真記録、ビデオ記録、授業内容記録(教師-子どもの発話)は当該学年で行った。
- ・授業中の記録は、協働の視点を授業の中でどのように組織し、子どもがどのように変容したかが分かるように記入した。
- ・授業後の感想が記入されたKJ法カードは、授業後、研究推進部でまとめ、協議会の資料とした。
- ・授業後の協議会は詳細を記録し、その後、幼・小・中共通のフォーマットである「研究授業のまとめ」(次頁参照)に要点を集約した。
- ・同時開催の研究授業については共通理解をはかるため、協議会終了後、参会者が一同に集まり、それぞれの授業者と協議会記録者とで、授業の内容及び話題になったことを簡潔に報告しあった。

### <話し合いへの参加の工夫>

- ・授業を見て、話し合いの視点にしたいプラス面、マイナス面、協働に関する面の3点を色別けしたポストイットに記入してもらった。その際、校種を明記し、幼・小・中による園児・児童・生徒の見方の違いが明らかになるようにした。
- ・3校園における関連学習分野や教科の教員は、研究授業を参観し、積極的に話し合いに参加した。

## 3) 研究授業の蓄積と活用

各校園において研究授業(保育)実施の際には、「研究授業指導演」「研究授業の話し合い記録」「研究授業のまとめ」の3種類の資料を作成することを共通にした。「研究授業のまとめ」の視点や形式も3校園共通のフォーマットにした(次ページ参照)。これらの資料はバーチャル職員室に蓄積し、幼・小・中のどの教員がいつでも活用できるように工夫した。

このようにして蓄積した資料からみえてくるものを、まずは各校園で「協働」「適時性・連続性」の視点から考察し、さらに全体でまとめる方向にある。

以下は実際に行った研究授業における「研究授業のまとめ」の1例である。

|  |   |
|--|---|
| 日時：2005年10月31日(月) 12:00～13:30  | 学年組：5歳児 山の組・海の組   |
| 学習分野：なかま   | 授業者：伊集院・高橋  |
| <p>＜目標＞・接続前期の学年全体の取り組みの中で、イメージを共有しながら進める活動での協働の姿を探り、活動のあり方、教師の働きかけを検討する。</p> |   |
| 授業者自評  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の“ファイヤーランド”はこれまでやってきたこと、今興味あることを中心に子どもたちが自分で何の店・コーナーをやりたいか決めた。選んだ店・コーナーが一緒になってひとつの大きな活動が創りだされることをからだで感じて欲しいと考えた。短期間だったが、メンバーを入れ替えながら根気強く活動を続け、細かいところでのこだわりも見られた。</li> <li>・準備期間では、“ファイヤーランド”の全体像、活動の流れをみんながイメージするのは難しかった。やりながら自分の活動がひとつの大きな流れの中に位置付いていることを感じていった。</li> <li>・意見のぶつかり合いを自分たちで何とか解決し、問題を乗り越えるようになってきている。</li> <li>・教師の投げかけでさらに考える姿があった。教師の働きかけの内容、タイミングが重要。</li> </ul>                                     |
| 協働   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体活動としての協働、お店としての協働、具体化するときの意見の調整の協働、いろいろなレベルでの協働がある。友達同士が集まったところから何か始めようとし、ぶつかりながら活動を作り上げようとしている姿が多くあった。そのぶつかり合いが大事であり、教師の働きかけはどうあるべきかが重要。</li> <li>・“話す” “聞く” のバランス、3・4歳からの積み重ねが大事。自分の思いをもち、表すことは「協働」への足がかり。共に活動する場に自分の思いをもって位置づることが「協働」を支える。</li> <li>・“聞く姿勢” に対しては、聞けるようになる教師の手だてや具体物の活用などの働きかけと、聞きたいという意識を育てることがあるが、幼稚園、小学校で教師の意識に微妙に違いがある。また、そこに至るまでの活動への取り組み方も含んで捉える必要がある。場に対しての構えを伝えることは必要。</li> </ul>            |
| 適時性・連続性  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会での達成感、充実感から、その後当番活動などにも意欲的に取り組む姿があった。その流れからこの時期に子どもたちの力を結集させるような活動として取り入れた。(適時性)</li> <li>・話し合いの参加の意識はどの程度もてるのか。話し合いのもち方、働きかけの工夫を考える必要がある。活動のさせ方で話し合いへの参加の仕方のスタンスも違ってくる。先生の話聞く姿勢は育っているが、友だちの話聞くのは難しい。話し合いの持ち方によっては、他の教師も連携してフォローに入ることも可能。</li> <li>・文字の習得に関しては、遊びの中で必要感があって文字を使っている。必要なことを文字として表したいという気持ちが大事。柔軟な文字との関わりを大切にしたい。</li> <li>・お店屋さんの活動は、小学校にも繋がる活動。教師の意図を組み込みながら達成感をあじわえるような活動を連続性・適時性を多々考えられる。</li> </ul> |
| 他校   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校では、話し合いの場ではその場への参加の構えをはっきりと伝える。</li> <li>・「聞く」ということには教師側の聞かせる工夫、手だてが必要ではないか。</li> </ul>  |
| 他  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女によって活動への集中の仕方に差があるように感じた。→男女の差というより、お店の特性、女兒は作りためる活動が多く、男児は動きながら作り上げていくパターンが多い。</li> </ul>  |
| 課題   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ともだち」から「なかま」へとかわる時期、どのような姿をイメージするのか、そこでの教師の働きかけを文章化すること。</li> </ul>  |

### (3) 授業研究から見えてきたもの

評価ワーキンググループでは、「研究授業のまとめ」から、さらなる読みとりを行い、研究評価につなげる視点や今後の課題を見出そうとしてきた。読みとる際の項目には、次の4点を設定した。

#### 1) 協働して学ぶ子どもの姿

研究テーマに迫るうえで、協働して学ぶ子どもの具体的な姿を三校園で共通理解することから始めた。話し合いを重ねるごとに、目に見えた関わりあいの姿を語るのみでなく、一人ひとりの背景や、日頃の様子などを踏まえて、授業の中で見えた姿を語るようにしていった。授業を通じて見えてきたことは、個々の中に必然性を感じた課題や活動においては、分かってほしい、解決してほしいという意欲の高まりから、自然に他者との対話が生まれ、個々がつながり出すということだ。協働の活動では、それぞれが思い描くイメージに近づけようと、時にぶつかり合う姿も見られるが、目的に向かう過程において折り合いを見つけたり、息を合わせたりしながら新たな関係が生まれ、そこから学びが生じていく様子を見ることができた。一方、授業後の話し合いでは、協働して学ぶ子どもの姿を我々が捉える際に微妙なズレがあることも明らかになった。今後も授業研究を継続するなかで、検討を重ね、協働の営みの中にある子どもの姿をていねいに語り合っていきたい。

#### 2) 協働して学ぶための具体的な手だて

協働して学ぶ場の質的な高まりを目指す上で、「研究授業のまとめ」から有効かつ具体的な手だてが示されている部分に着目した。ここでは、際だったものを挙げておきたい。

- ・一往復半のコミュニケーションを心がけている。
- ・協働して学ぶための適正人数は4・5人が限度。(今後も検討が必要)
- ・話し合いを活性化させるための工夫。例えば、司会者をたて、全員の意見を聞くよう指導する。

叙述のさせ方を指導する、等。

- ・共通の目標があると協働せざるを得ない。そのような状況をつくり出す。
- ・“聞く姿勢”に対しては、聞けるようになる教師の手だてや具体物の活用などの働きかけと、聞きたいという意識を育てることとがある。

#### 3) 適時性・連続性に関する重要事項

授業後の話し合いでは、適時性・連続性に関する話題を意識的に取りあげるよう努めた。ある活動が、対象の発達段階に即したのか否かを問うに止まらず、個々の学びの履歴といかに結びつくのか。さらに、上の年齢でどのような力として発揮され、いかなる学びにつながるのか、といった話題に発展した。特に、異校種からの疑問や感想の中には客観的かつ新鮮な見方があり、渦中にいると見過ごしがちな事柄にあらためて目を向ける契機となった。一例を紹介する。

〔しぜん・1年生〕

- ・五感を通して学ぶ。比べてみる。これらは連続した学びとして位置づく。
- ・脱皮、交尾などの変化を見るのは、新鮮に捉える低学年こそ大事。
- ・今は、一次言語のときなので、自分の感覚からの言語を大事にしたい。
- ・生き物に愛情を注ぐという経験が大事。
- ・3歳の頃、一番疑問がでてくる。それを持ち続けることが自然の分野では大切。(幼稚園より)

#### 4) 継続して検討する事項(課題の洗い出し)

今年度の発展課題として共通にあげられた事項をまとめると、大きく以下の二点になる。

- ・子ども同士の相互交流が生まれる場の設定(集団の規模、グループ構成、環境づくりを含む教師の役割等)

・適時性や連続性に関して、現行の指導要領を見直し、本校園オリジナルのあり方を検証していく。  
 これらは、「研究授業のまとめ」をもとに見えてきた課題である。一方、「まとめ」に集約することで、授業の概要は明確になるものの、子どもの様子を語る生の声や話し合いの詳細が見えにくくなりがちである。必要に応じて、授業後の詳細記録をもとに、課題をふりかえることも大切にしたい。

## 2. 研究の評価

### (1) 評価のねらいと構想

研究開発を進めるにあたって、計画－実行－評価のPDSサイクルを確立するため、評価WGを設置した。そこを中心として、研究成果をよりよくするため、また、研究活動の的確性・妥当性を判断して研究開発に生かすねらいで、以下のような研究評価の構想を立てた。

#### 1) 評価のステップとその視点

##### ①事前（初期）評価

- 研究そのものが教育実践研究として学問的に重要か（重要性）
- お茶大附属で取り組む必要があるか（必要性）
- 目標を達成するための計画が適切か（計画の妥当性）
- 研究に関わるヒト・モノ・カネ・情報・時間は充分あるか（資源の妥当性）
- この研究の成果が社会に貢献できるか（成果の波及効果及び発展性）

##### ②中間評価

- 研究目標を実現する可能性が見えているか（研究の進捗度）
- 情勢の変化に対応して進めているか（情勢変化への適合性）
- 当年度の計画は妥当であったか（当年度計画の妥当性）
- 挙げつつある研究成果は妥当なものか（研究成果の妥当性）
- これまでに挙げた研究成果を広く発信しているか（研究成果の発信）

##### ③最終評価

- 最終的に目標は達成できたか（目標の最終達成度）
- 教育実践研究としての学問的知見が得られたか（研究成果の学問的価値）
- 社会的に重要な知見が得られたか（研究成果の社会的価値）
- 本研究が社会にどのように貢献できたか（成果の波及効果及び発展性）
- 総合的に見て、本研究はどのような意味があったか（総合評価）

#### 2) 評価の枠組み

|                      |           |  |
|----------------------|-----------|--|
| A<br>研究の目的・<br>計画・方法 | a 理念      | ・本校の目指すものの明確化 ・理念の共有化                                    |
|                      | b フレームワーク | ・理念の具現化  |
|                      | c 実践      | ・日々の教育実践 ・授業研究   |
|                      | d 研究体制    | ・研究組織 ・研究組織の運用   |
| B<br>研究の成果           | a 子どもの姿   | ・子ども自身による評価 ・教員による評価<br>・保護者による評価 ・外部の評価<br>・学力テスト等による評価 |
|                      | b 学校の姿    | ・子どもによる評価 ・教員による評価<br>・保護者による評価 ・外部の評価                   |
|                      | c 社会貢献    | ・外部の評価   |

### 3) 評価の方法

- 調査対象者 ・子ども ・保護者 ・教員 ・学校評議員 ・学校参観者等外部者  
 調査の方法 ・インタビュー ・学力調査 ・アンケート調査 ・追跡調査  
 ・実証的データ分析 等

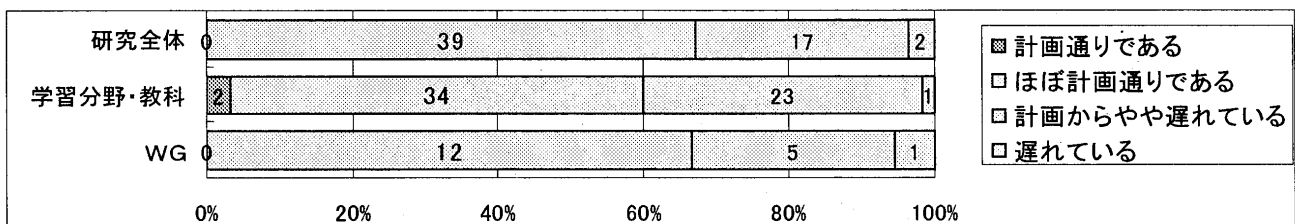
#### (2) 中間評価

研究初年度の11月に、進捗状況や組織など見直しの必要性を探るために、幼稚園・小学校・中学校の教員を対象に、アンケートを行った。アンケートは大きく「研究全体」「学習分野・教科」「WG」と3つに分かれるが、それぞれについて①計画内容通り進捗していると思うか②計画の見直しの必要があると思うか③大学の先生との協力連携は妥当だったか、という質問のほか、「研究全体」では実施体制の妥当性、「学習分野・教科」については「協働」「適時性・連続性」について、研究内容を普通の授業で生かしたかという質問をし、3～4段階の中から評価をし、また改善すべき評価についてはコメントを集めた。

回答数は「研究全体について」と「分野教科について」が60名（幼7小28中25）、「WGについて」が19名（幼5小7中7）であった。

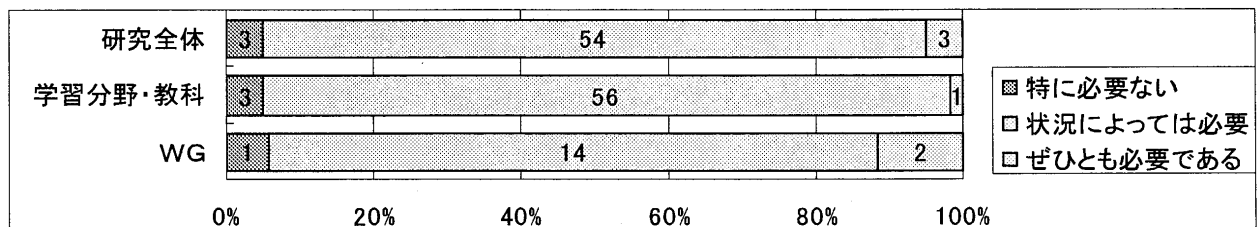
次に具体的な質問とその回答分布を概説する。

「研究全体」「分野・教科」「WG」計画内容どおり進捗していると思いますか。



研究全体やWGにくらべ、分野・教科では計画より遅れているという意見が多かった。これは、合同研究会やWGが定期的に予定を組んで行われていたのに対し、分野・教科では幼小中にわたる「学びの概要」の作成という、関係者が十分に話し合い合意をもちながら進めなければいけない課題があるわりには、分野・教科のメンバーが一堂に会して議論する時間が十分にとれなかったという事情がある。

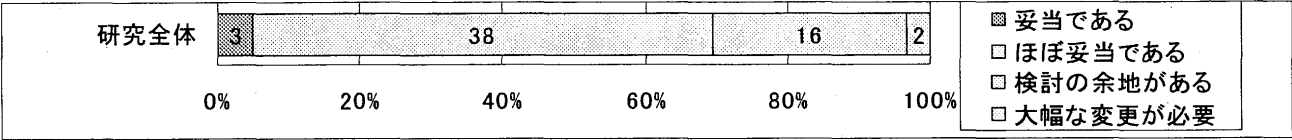
「研究全体」「分野・教科」「WG」計画の見直しの必要があるかと思いませんか。



「状況によっては必要」という、中央の選択肢に偏ってしまった。質問またはあいまいな選択肢に問題があったかもしれない。ただし、極端な不満はないといえる。

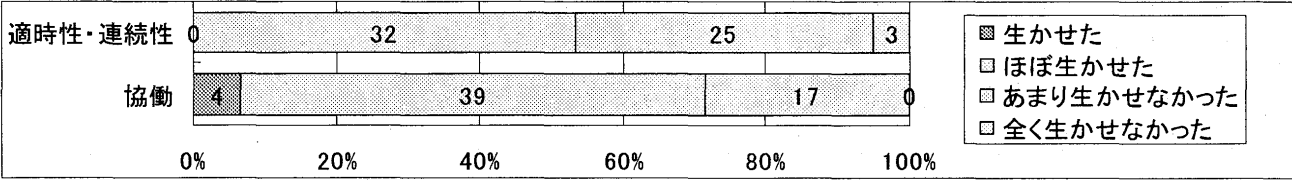


〔研究全体〕実施体制は妥当なものでしたか。



検討の余地があるとされた具体的な内容としては、「横の連携が不十分」という点と「特定の人に仕事偏っている」という2点にほぼ集約される。ただし、特定の人に仕事偏っている点については、3年間の研究で年度ごとに研究の中心となるメンバーを回すことで、3年間のスパンではある程度の仕事量の平均化は可能であると考えられる。

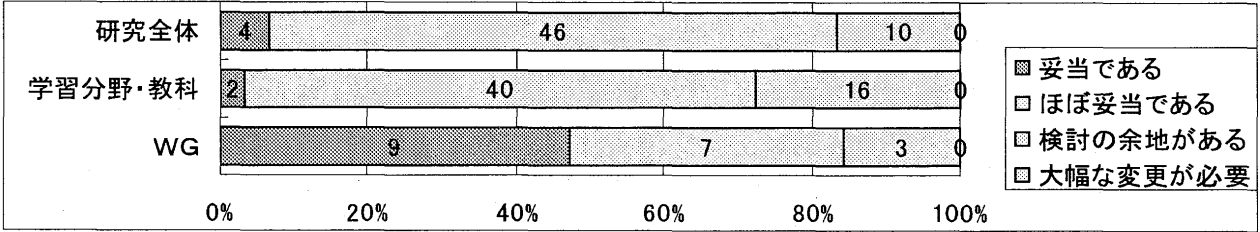
〔分野・教科〕「協働して学びを生み出す子ども」「適時性と連続性を考えた連携型一貫カリキュラム」のそれぞれに関して、研究内容を、普段の授業で意識的に生かしましたか



どちらのテーマも「あまり生かせなかった」「生かせなかった」を選択したもののコメントを見ると、テーマ自体を自分の中で漠然としていて十分に理解していない、という意見が目立った。その背景には「協働」「適時性・連続性」の定義をするのが遅れたこと、またその定義がシンプルではないことなどが挙げられるだろう。

さらに、幼稚園・小学校において「協働」については「ほぼ生かした」という肯定的評価がほとんどであるのに対し、「適時性・連続性」については「ほぼ生かした」と「あまり生かせなかった」が半々であった。一方中学はどちらのテーマも「ほぼ生かした」と「あまり生かせなかった」が半々で、2つのテーマにおける差はあまりなかった。これは、幼稚園・小学校で本研究以前にも「協働」をテーマにして研究を進めてきたことも影響していると思われる。

〔研究全体〕〔分野・教科〕〔WG〕本学（お茶の水女子大学）の先生との協力・連携は妥当なものでしたか。



従来とくらべ、全体的に好評であったといえる。この関わりをどう生かすかが今後の課題になるといえよう。

この他、自由記述で目立った指摘としては、英語の扱いについてがある。とくに小学校での英語の扱いをどのようにしていくか、うまく進められなかった点について、小中両方からの指摘があった。

### (3) 今後の評価とその活用

17年度の研究評価については、評価の枠組みにあるAのa～dをすでに実施し、その結果を(2)に述べた。この中間評価結果から、それぞれの研究における課題や成果が見えてきたと同時に、ややもすると研究の内容が拡散していく傾向も見られることから、18年度に向けて、研究主題に沿っての焦点化、課題の絞り込を行っていきたいと考えている。さらに、現在、年度末に向かっては、Bの「研究の成果」についての評価を以下のように実施しているところである。

#### <a 子どもの姿>

・「協働して学びを生み出す子どもの育成」に関して、子どもの状況を把握するアンケートを実施し、17年度における本研究の成果と課題を明らかにするとともに、研究開発の2年目、3年目にも同じアンケートを実施し、子どもの状況の変容を評価する。

・「幼・小・中12年間の適時性・連続性を考えた連携型一貫カリキュラムの開発」に関して、「各学習分野・教科」や「なかま・創造活動・総合」において、学習目標や内容、指導の手だてや教材・学習環境等が適切に計画・実施されたかどうかを、子どもへの学力調査や意識調査、教員へのアンケート調査等で評価する。

・新教科で育てる資質・能力については、評価方法等について検討する。

・「学びを支える生活力の育成」に関して、「基本的な生活習慣の一貫した指導」と「大学と連携したメンタルヘルスサポート研究を指導に生かす」という2つの視点から、適切な指導が行われたかどうかを子どもと教員のアンケート調査から評価する。

#### <b 学校の姿>

・保護者へのアンケートを実施し、上記のような子どもの姿に関する保護者の意識を調査し、それらをもとにして学校の姿について評価する。

#### <c 社会貢献>

・2月に開催する幼・小・中合同公開研究会でアンケートを実施し、全国の教員や教育関係者の本研究に関する受け入れ状況や効果を評価する。

なお、第1章で述べたように、いわゆる「中1ギャップ」を克服する接続期カリキュラムの開発については、次年度に実際の取り組みを行う予定であるが、現在までに以下のような調査をすでに実施し、子どもの状況把握を行っている。その詳細については、次年度報告したいと考えている。

☆ 小学校と中学校の接続に関する調査（主に教科に関して）

- ① 現在附属中学校2年生を対象として「中学生になって」の調査（2004年12月実施）
- ② 現在附属中学校1年生を対象として「小学校から中学校へ」の調査（2005年5月実施）
- ③ 現在附属小学校6年生を対象として「小学校から中学校へ」の調査（2005年6月実施）
- ④ 現在附属中学校1年生を対象として「算数から数学へ」の調査（2005年4月実施）
- ⑤ 現在附属中学校1年生を対象として「中学生になって」の調査（2005年12月実施）

さらに、今後、以下のような調査を実施し、公立学校との比較を含めた評価をしていく予定である。

☆ 小学校と中学校の接続に関する調査（主に学校適応、学習・生活態度に関して）

- ① 現在附属小学校6年生を対象として（2006年3月実施）
- ② 附属中学校入学予定者（附属小学校以外）を対象として（2006年3月実施）
- ③ 18年度附属中学校1年生を対象として（2006年7月実施）
- ④ 18年度附属中学校1年生を対象として（2006年11月実施）

#### (4) 現在実施中の主な調査

(3)で述べたように、17年度の「研究の成果」について評価するため、現在いくつかのアンケート調査を実施しているところである。調査結果は3月末から春休みにかけて分析し、次年度の研究に生かしていきたいと考えている。

以下に、現在実施中のアンケート調査の質問項目について示す。

##### 1) 子どもアンケート

- (1) グループで（友達といっしょに）活動するのが好きですか。  
ア とても好き    イ 少し好き    ウ あまり好きではない    エ 好きではない
- (2) グループで話し合いをするとき、自分の意見を言うことができますか。  
ア しっかり言える    イ まあまあ言える    ウ あまり言えない    エ まったく言えない
- (3) グループで話し合いをするとき友だちの気持ちを考えながら聞いていますか。  
ア いつも考えている    イ ときどき考えている    ウ あまり考えていない  
エ まったく考えない
- (4) 友達の考えと自分の考えがちがうとき、あなたはどうすることが多いですか。  
ア 相手の考えをもっとよく聞いて、もっと話し合ってみることが多い。  
イ 自分の考えをよく話して、相手に考えを変えてもらうことが多い。  
ウ ちょっとちがうと思うけど、相手の考えにあわせることが多い。  
エ すこし強い言い方になって、自分の考えを押しとおすことが多い。
- (5) 自分の考えと違うところがあっても、グループや友達と決めたことに協力できますか  
ア いつもできる    イ だいたいできる    ウ できないことがよくある  
エ めったにできない
- (6) 創造活動（学年の時間）では、自分のやりたいことが充分できましたか。  
ア 大変よくできた    イ まあまあできた    ウ あまりできなかった  
エ まったくできなかった
- (7) 創造活動（学年の時間）は、友達と話し合ったり、協力して活動できましたか。  
ア 大変よくできた    イ まあまあできた    ウ あまりできなかった  
エ まったくできなかった
- (8) 創造活動（学年の時間）で、今年度一番印象に残っている活動は何ですか。  
印象に残った理由は何ですか。

##### 2) 保護者アンケート（接続期について）

- (1) 研究開発校として研究を進めていることをご存知でしたか。  
ア 知っていた    イ 知らなかった
- (2) 幼稚園・小学校・中学校が連携して一貫性のあるカリキュラムについて考えることについてどう思われますか。  
ア とても良いと思う    イ 良いと思う    ウ 必要ないと思う    エ どちらとも言えない

- (3) お子様が小学校から中学校へと移行する際に何か不安を感じましたか。  
 ア とても不安だった イ 少し不安だった ウ あまり不安は感じなかった  
 エ 全然不安は感じなかった
- (4) 実際には、お子様は中学校に問題なく移行できましたか。  
 ア 問題なく移行できた イ 少し問題があった ウ かなり問題があった
- (5) (4)でイまたはウと答えた方にお聞きします。  
 中学校に移行する際に問題になったのは、どういうことですか。(複数回答可)  
 ア 勉強 イ 生活 ウ 友だち エ 先生 オ 部活動 カ 先輩・後輩の関係  
 キ その他( )

### 3) 保護者アンケート (基本的生活力について)

- (1) 基本的生活力のめやす表をつくったことについてどう思いますか。  
 ア 大変よいと思う イ よいと思う ウ 必要ないと思う
- (2) 基本的生活力を自律的生活習慣と社会的な生活習慣で構成したことをどう思いますか。  
 ア 大変よいと思う イ よいと思う ウ 改善した方がよいと思う
- (3) 段階ごとの項目は子どもの生活のめやすとしてあっていると思いますか。  
 ア 大変あっていると思う イ あっていると思う ウ 改善した方がよい部分がある
- (4) めやす表を家庭生活の中で参考にしようと思いますか。  
 ア 全部参考にしようと思う イ 一部参考にしようと思う ウ 参考にしようと思わない
- (5) 基本的生活力のめやす表について、ご意見などがありましたらご記入下さい。

### 4) 公開研究会参会者アンケート

- (1) 保育・授業の中で、子ども達が協働して学ぶ姿が見られましたか。  
 ア とても見られた イ 少し見られた ウ 見られなかった  
 エ どちらとも言えない
- (2) 保育・授業の内容・方法は、子どもの発達にあっていると思われませんか。  
 ア とても思う イ まあ思う ウ 思わない エ どちらとも言えない
- (3) 「学びの概要」は、学習指導要領の課題を改善するために参考になるところがあると思われませんか。  
 ア とても思う イ まあ思う ウ 思わない エ どちらとも言えない
- (4) 幼・小・中連携の課題の一つとして生活力の育成を掲げていることをどう思われますか。  
 ア とても良いと思う イ まあ良いと思う ウ 良いとは思わない  
 エ どちらとも言えない
- (5) 幼・小・中の学校間の連携が見られましたか。  
 ア とても見られた イ 少し見られた ウ 見られなかった  
 エ どちらとも言えない
- (6) 感想をご自由にお書きください。

### 5) 教員アンケート (略)